

下大和田谷津田だより

2002年3月号

YPP報告 冬のいきもの探検 2月17日

心配した天気の流れが遅れ、この季節としては暖かな陽気の中、冬のいきもの探検を楽しみました。今回の目玉はニホンアカガエルの卵。真冬に冬眠から目を覚まして産卵するというおもしろい生態のアカガエル。下大和田では今年は1月末頃から産卵が始まったようです。その卵を調べてみようというのが今回のイベントです。まず、どこに卵があるか探して、枯れ野から取ったアワダチソウを目印に差しました。その数41。それが昨年米作りをした土水路寄りの田んぼ

1枚だけに産み付けられていました。よく見るともうオタマジャクシが誕生しています。まだ黒い棒のような形をした赤ちゃんは多くが卵塊の近くでじっとしていました。卵塊の一つをすくい上げて卵の数をみんなで手分けして数えてみたら、その数およそ2000。これは500gある大きな卵塊のケースで、他の卵を計ってみたら200g程度なので、田んぼに3万個以上の卵があることとなります。でも、産卵しているのは昨年米づくりをした田んぼのうち、限られた場所だけです。稲作と共存してきたアカガエルの生活やそれ故に急速に数を減らしている現状がわかります。

(カルの卵観察カド)

まだ、日陰は氷が張っている田んぼですが、日なたの水温はこの日の気温とほとんど同じ13度もあり、よく見るとミジンコなどプランクトンがたくさん発生しています。マツモムシの子どもも泳いでいるし、メダカやドジョウも元気いっぱいです。春に向かって季節は確実に進んでいるんですね。

卵はたくさんあったのですが、親ガエルの姿はありません。この季節の夜に卵を生んだアカガエルは再び冬眠に入ってしまうのです。そこで、千葉県立中央博物館からお借りしたカエルの教材セットを使って、アカガエルの石膏模型づくりに田んぼで挑戦してみました。溶いた石膏を型に流し込むだけですが、泡を立てずに細かいところまでしっかり石膏を満たすのがコツ。1時間ほどしてわくわく、どきどきで型からはずすと、本物そっくりのアカガエルが現れて、皆、歓声を上げました。実はこの模型、本物のカエルを元に作られているので、とても精緻なのです。カエルが冬眠から姿を現したら、色付けをすることにしました。

さて、いきもの探検やカエルの模型づくりを終えてから、イベント広場でうどんを食べたり、たき火で焼き芋をしました。さつまいも、じゃがいもに加えて、かぼちゃの丸焼きにもトライ。1時間ほどして恐る恐るナイフを入れたかぼちゃは、ホクホクに焼き上がっていて、意外なおいしさにみんな驚きました。たき火の季節ももうじき終わり、いよいよ春がやって来ることを実感した一日でした。

(参加者：大人12人・小学生2人・幼稚園児2人)

ゴミ拾いと自然観察会報告 2月17日

今月は天候の関係で2月17日に行われました。日だまりでは春を感じさせるオオイヌノフグリのブルーの花やホトケノザ、ヒメオドリコソウの赤い花が見られました。また、恋の季節を迎えたモズがその名(“百舌”)のとおり、他の鳥の鳴き真似をしてメスを誘っている様子も観察できました。

観察された動植物は次のとおりです。

<花> オオイヌノフグリ、オランダミミナグサ、タネツケバナ、セイヨウタンポポ、ヒメオドリコソウ、ノゲシ、ナズナ、スズメノカタビラ、ノボロギク、ホトケノザ、アラカシ

<野鳥> セグロセキレイ、コジュケイ、ハシブトガラス、モズ、メジロ、アオジ、クサシギ、シロハラノアカハラ、シジュウカラ、コゲラ、ツグミ、エナガ、ヒヨドリ

<昆虫ほか> ナナホシテントウ、アブ、ナガコガネグモの卵塊

<水中生物> メダカ、ドジョウ、ヨコエビ、スジエビ、ケンミジンコ、マツモムシ

定例観察会と谷津田プレーランドプール外(YPP)の活動を中心として、下大和田のようすを皆さんにお伝えします。皆さんのご投稿、ご意見をお待ちしています。 高山邦明